

【愛するということ】

わたしは保育をする中で子ども達に必ず伝えていることがあります。
それは「自分を大切にしてくれる人を大切にすること」「それと同じくらい自分のことを大切にすること」です。

自分のことを大切に思ってくれる人、自分の好きなこと、そして自分自身を大切に
する気持ちは、いつか子どもが壁にぶつかったときに自分を守ってくれる存在に
なります。

その気持ちを子ども達にどう伝えたらいいか？と考えたときに出逢ったのがこの本でした。
エーリッヒ・フロムが書いた『愛するということ』を子どもにもわかりやすく訳してあります。
今回はたくさんあるフロムの言葉の中から、いくつか紹介します。



～愛することを知るには、自分で経験するしかない～:やってみないと分からない!

子どもは行事や遊びを通して出来なかったことに対する悔しさから「出来るようになりたい」と
何度も練習して徐々に出来るようになります。

「人やものを大切にすること」も同じ要領で練習を重ねる必要があるとフロムは言っています。
友達や周りの大人と喧嘩をして仲直りをしたり、相手を思って行動したり…人間関係では楽しいことも
あれば悩んだり苦しい思いをすることもあります。

大人は「あなたはどうしたい?」「自分が正しいと思う選択はなんだろう?」と問いかけ、その子自身が
考え、選択するサポートをしていく必要があります。

実際、子ども自身が選択したことで、成功もあれば失敗もあると思います。

しかし「自分で選んで挑戦する」という繰り返しが、子どもが自分の力で生きていく上で何より大事な
ことだと思えます。

誰と一緒に過ごすのか、好きなことを見つけて挑戦していくのか、どんな服を着るのか…

子どもがさまざまな「もの」「ひと」への愛し方を知ることが出来よう、私達職員は日々の保育の中で
子ども達への“問いかけ”を大切にしています。

～自分の利益ばかり考えているのと、自分を大切にすることは全く違う～

：自分を愛して大切にすること

子どもは、自分の目的を達成しようとさまざまな言い回しで大人に伝えてみたり、わざと強い言葉を使
ってみるなど、発達の過程で大なり小なりそういう手を使います。

ただ、大きくなっていくにつれて「自分を大切にする方法」も知っていく必要がある、とフロムは説いて
います。

彼の言葉を聞いて私が共感したのは、自分“だけ”が得する方法を考えるのは「自分を大切にすること
にはならない」、ということです。

自分と相手が一緒に喜び合える形を考えることが、自分を大切にすることに繋がります。

自分を愛して大切にするためには、周りの人（友達や家族など…）も愛して大切にすることが必要です。

フロムの言葉から、どう解釈するかは人それぞれだと思いますが、よかったら皆さんもぜひ手に取って、
子どもと一緒に読んでみてください♪

(皆川)